

# 博物館に行こう！ —宇宙教育活動の具体的な 展開としての博物館見学—

本教材は宇宙とのつながりを軸として科学を身近に感じてもらうために作った科学教材です。本教材の利用による事故等については一切責任を持ちかねますので、本教材の利用は、経験のある指導者の指導の下に行ってください。



●教材提供●  
日本宇宙少年団  
呉やまと分団  
白井敏夫氏

2012年4月1日 発行

## 目標とねらい

「ほんもの体験」という文脈で実施する博物館見学を、教育的に意義ある活動にするためにはどのようにしたらいいのでしょうか。宇宙教育指導者セミナー等で使用している資料等を活用しながら、博物館見学を危機管理や安全教育という視座を据えた宇宙教育活動として展開しましょう。

## 1 はじめに

博物館の見学の教育的な意義はどのようなものがあるのだろうか。

(博物館や科学館等の総称として「博物館」と表記する)

宇宙教育活動では、「ほんもの体験」という表現を大切にしている。

博物館見学は、まさに「ほんもの体験」を芯にした宇宙教育活動の具体的な展開である。

平成20年度、日本の博物館総合調査研究報告書によれば、日本には博物館が898館、相当館が352館、類似館が2785館、合計4035館という。

博物館見学を、宇宙教育活動にどのように展開したらいいのだろうか。

## 2 「カリキュラムと活動計画立案」と博物館見学

宇宙教育指導者セミナーでは、宇宙教育活動をカリキュラム化しようということを、積極的に説明している。

平成 20 年までの宇宙教育指導者セミナーでは、「活動計画立案」という文脈で、宇宙教育をカリキュラム化することを説明していた。セミナーテキストにおいては「カリキュラムと活動づくり」（平成 22 年 4 月改訂版では、第 5 章）でその重要性を説明している。

博物館見学を教育として展開していくために、「カリキュラムと活動計画立案」という文脈を大切にしたい。

「カリキュラムと活動計画立案」の講座で用いているスライドで、博物館見学の要点をまず概観したい。

※ 序の「1-19」「1-20」でも紹介。

「カリキュラムと活動計画立案」での PPT	博物館見学に関わっての留意事項
<p><b>結論</b></p> <p><b>宇宙教育の根幹が活動計画（年間・各回）です！</b>  <b>活動計画を可視化しましょう！</b>  <b>活動計画を宇宙教育の網の目にしましょう！</b></p> <p><b>各組織の持ち味を活かそう！</b>  <b>指導者がつながろう！</b>  <b>宇宙教育の視座を確かにしよう！</b></p> <p>参加者 → 行きたくてたまらない 楽しみ → 夢 目標          保護者・社会 → 安心できる 明るい話題 → 共感の具体          指導者 → 生き甲斐 → 自己実現</p>	<p>各回の宇宙教育活動が文書化された活動の計画として用意され、指導者群で事前に検討し、指導者が役割分担をすることを大切にしたい。</p> <p>各組織がそれぞれも持ち味を活かし積極的に博物館見学を展開するようにしたい。</p> <p>参加者が楽しみにして、保護者が安心できる博物館見学を展開することにより結果として、指導者自身も自己実現が図れたら幸いである。</p>
<p><b>4. 各回活動の立案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• その回の活動内容が持つ魅力、重点はどこか</li> <li>• 参加者の実態に照らし、技術・知識的な課題点はどこか</li> <li>• 特に解決が困難な課題はどれか             <ul style="list-style-type: none"> <li>- その課題は事前の準備により回避可能か</li> </ul> </li> <li>• 最も時間を掛けて取り組ませたいところはどこか             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 指導者の手伝うところ、見守るところはどこか</li> </ul> </li> <li>• 全体の時間進行に無理はないか</li> <li>• 安全への配慮</li> </ul>	<p>博物館見学のもっとも大きな魅力は、ほんもの体験であるし、それに関わる展示物や諸施設であるし、博物館に関わっている豊かな人材である。そのどこに焦点を当てるかが課題である。博物館に依頼すること、引率する指導者の役割をどうするかを検討しなければいけない。</p> <p>何よりも博物館見学に参加する子どもの積極的な意欲を大切にすることが必要である。</p> <p>いつもとは異なる場所での活動である。時間的なゆとりをもつと同時に、安全への配慮を格別に配慮する必要がある。</p>
<p><b>各回活動案の項目例</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 活動名</li> <li>• 目標・ねらい             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 目標① …(内容面の目標)</li> <li>- 目標② …(資質・能力に関わる目標)</li> </ul> </li> <li>• 活動の流れ             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 活動の順番、時間の目安</li> <li>- 指導上の留意点</li> <li>- 支援・指導(関わり)と評価(みとり)のポイント</li> <li>- 人員配置、安全上の配慮</li> <li>- (保護者対応)</li> <li>- まとめ、次回の活動への【つなぎ】</li> </ul> </li> </ul>	<p>博物館見学時の活動計画では、活動名、目標・ねらいにあわせて詳細な活動の流れの記述が必要である。</p> <p>時間を追って、どこで何をするか。そのために指導者は何を必要とするか。関連してどのような準備物が必要か考察する必要がある。</p> <p>詳細な活動計画を用意することによって、子ども、保護者の用意するもの、指導者の用意するもの、博物館に依頼するものも明確になろう。</p>

「カリキュラムと活動計画立案」でのPPT	博物館見学に関わっての留意事項
<p style="text-align: center;"><b>活動名、目標について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動名           <ul style="list-style-type: none"> <li>できるだけ魅力ある、参加者・指導者を引きつけるネーミングを</li> </ul> </li> <li>目標           <ul style="list-style-type: none"> <li>できるかぎり具体的に、期待する参加者の姿、成果が見て取れるように記述</li> <li>年間活動計画、および参加者の実態を勘案して設定</li> </ul> </li> </ul>	<p>見学する博物館で、どのようなほんもの体験をしようとするのか、その意図を明確にしたネーミングをしたい。「○○博物館見学！」でなく、「ミールのすごいところを見つけよう！」「桜島のジオラマと人工衛星写真を比べよう！」「ランドサット受信アンテナを調べよう！」等と平素の活動との関連でネーミングを考えよう。</p> <p>目標では、「だいちの模型、ひまわりの模型をお家の人に説明できるようになろう。大きさ、形、高度、役割を」と具体的に明示することも大切である。</p>
<p style="text-align: center;"><b>活動の流れ</b> <b>①導入場面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一回の活動を3～4場面に区分</li> <li>①導入場面           <ul style="list-style-type: none"> <li>今回の活動を意識づける</li> <li>「やってみよう」</li> <li>これまでの活動とのつながり</li> <li>「課題となるポイント」「安全に関わる留意点」など</li> </ul> </li> </ul>	<p>集合地点から活動は始まっているのであるが、博物館への入館は重要なポイントである。他の入館者へ十分配慮しながら、さわやかに入館の儀式を行いたい。挨拶はポイントになるし、改めて現地で退館時の集合場所・時刻を確認する必要もある。</p> <p>博物館見学を幾つかのグループで、博物館のボランティアの方の説明を受けながら見学する場合も、見学指導を丸投げすることは絶対に避けたい。説明を受けるときの聞く隊形づくりは重要な役割である。</p> <p>引率者が館内で誘導及び説明する場合は、説明と隊形づくりの両方をしなければいけない。</p>
<p style="text-align: center;"><b>活動の流れ</b> <b>②③活動・展開場面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中心となる活動に焦点化</li> <li>複数の活動が内在する場合には優先順位づけ</li> <li>活動の難易度により、無理のない時間配分を</li> <li>参加者自身で解決困難な課題については事前準備等による回避の検討を</li> <li>安全に関わる留意事項がある場合には、リーダーの配置・役割分担などに留意</li> <li>活動の中心           <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が興味を持つところ</li> <li>課題の難易度が高いところ               <ul style="list-style-type: none"> <li>ただし、参加者の能力・意欲でできるぎりぎりの(可能であれば、ほんの少し上回る)ところを動案して</li> </ul> </li> <li>↑基本的には時間内で解決できるように</li> <li>必要に応じて、作業場面③と中心課題解決・共有・実行場面④に区分</li> </ul> </li> <li>※活動記録を必ずおこなう           <ul style="list-style-type: none"> <li>写真撮影など</li> <li>まとめ・ふりかえり・ポートフォリオなどで活用</li> <li>ウェブサイトの活用</li> </ul> </li> </ul>	<p>見学する博物館で、どうしても見学したり体験したりすることについて改めて強調したい。</p> <p>博物館館内を、グループ別に自由見学する場合は、指導者が重点展示物に位置し、他の見学者の妨げにならない範囲で積極的に指導をすることも大切であろう。</p> <p>博物館の方に説明をお願いしている場合は、見学の意図を明確に伝えておきたい。</p> <p>記録活動を館内で実施するのか、館外で行うのかの判断も重要である。</p>
<p style="text-align: center;"><b>活動の流れ</b> <b>④まとめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かならず、その会の活動をまとめる時間を確保する           <ul style="list-style-type: none"> <li>例)5分話し合い+10分感想文記入(合計15分)</li> </ul> </li> <li>活動の中で見られた評価ポイントについて伝える           <ul style="list-style-type: none"> <li>頑張った、工夫した、根気強く取り組んだ、なかまと協力して取り組んだetc.</li> <li>ひとりひとりのこだわり、これまでとの変化(成長)をできる限り捉え、【ほめる】</li> </ul> </li> <li>【つなげる】           <ul style="list-style-type: none"> <li>次回以降、あるいは次の機会に直接繋がる活動がある場合には、言及</li> <li>次回の活動について、動機形成、及び準備、予習すべき項目等について説明</li> </ul> </li> <li>※活動終了後、速やかにその日の活動の検討会(反省会の開催)</li> </ul>	<p>博物館見学のまとめの時間は柔軟に設定したい。</p> <p>解散時の一口感想を、出迎えた保護者の前で語ってもらうことも効果的であろうし、博物館でお世話になった方へのお礼の手紙という形で書くことも大切であろう。</p> <p>博物館見学は大きな行事であるので、家庭に帰ってしおりに記入することも考えられる。</p> <p>宇宙教育活動は、情で入って情で終わることも大切にしたい。さわやかな挨拶の言葉で活動を終わりたい。</p> <p>指導者においては、デブリーフィングを設定したい。</p>

### 3 平素の活動に変化と秩序を与える博物館見学

博物館見学は、宇宙教育活動を継続的に展開している各組織の活動を発展させ、充実させることに大きな意義がある。そのことは宇宙教育活動で大切にしている「ほんもの体験」そのものであるし、ややもすると単調になりがちな平素の活動に変化を与え、宇宙教育活動に直接関わっていない平素の生活を明るく豊かにすることができる。

また、博物館見学活動を適切に展開させることによって、各組織への所属感を深め、博物館見学活動そのものの活動が、実社会との多様な接点を持つことから、集団行動における望ましい態度等公衆道徳・規範意識やその醸成に極めて望ましい成果が期待できる。

各宇宙教育関連組織が意図的計画的に実施する教育活動であって、計画実施の主体は各組織にあることも当然といえよう。

#### (1) 博物館見学の目標

##### ア 平素の活動に秩序と変化を与える博物館見学

博物館見学活動は平素の活動とは質の異なる変化に富んだ集団活動を通すことになる。

博物館見学の「場」はいつもの活動の場と大いに異なる。「場」への移動も平素とは大いに異なる。その変化を有効に生かすため、秩序が強く要求される活動だともいえる。

指導者に求められる諸準備、諸計画も多様で大量である。各組織がより組織的に行動することが望まれる。

博物館見学参加者が受けるいつもと異なる活動の場に対する適応性の不安、平素と同じでない条件で行われる活動に対する不安等を除去するのは、集団の秩序であろう。博物館見学を実施する事前指導の段階で、それまでの活動において大切にされてきた個々の約束やきまりを活用したい。また、この変化には解放感があり、潜在的な危険が潜んでいることに留意したい。

秩序には、不自由さと、安全との2つの側面があることについても指導者は承知したいものである。

変化と秩序を調和させるところに、「心地よさ」「安心感」がある。

##### イ 積極的に博物館を見学すること

宇宙教育活動関係組織が実施する博物館見学学校行事は、望ましい集団活動でありたい。望ましい集団活動であることの第1歩は博物館見学を積極的にすることであろう。

そのために、年度当初から博物館見学を含め、活動の見通しを語ることが重要である、とともに事前指導の段階から、周到に自主的に諸準備ができるようにしたい。

事前指導については、見学のしおりを事前に配付したり、保護者説明会を通して、時間をかけ博物館見学に取り組みたい。各家庭への事前の働きかけは特に効果が大きい。

見学のしおりは、見学する場所によっては、豊富なワークシートなどを用意している施設もあるし、他の団体が作成したしおりを豊富に保管しているところもある。

また見通しをもって博物館見学を組織することによって、長期休業中の課題と結びつけたり、学校生活への発展を企画する場合も多くなるであろう。

##### ウ 博物館見学の成果の新たな展開を図る

多くの博物館は、独自に作品を応募している。また、各学校では多様な作品を課題として出している場合も多いし、全国的な広がりのある作品の公募がある。

博物館見学の成果を、これらの作品に積極的に展開させていきたいものであるし、それが可能な博物館見学を組織したい。

## エ 平素の宇宙教育活動を一層明るく楽しく豊かにする

博物館見学を豊かで充実したものにするために配慮したいのが、欠席者に対する対応である。

見学者の募集の方法（博物館見学日・条件の設定、参加希望締め切り時期等）を時間をかけ用意したい。博物館見学日時が学校関連諸行事日程と重なっていたり、家庭の諸事情と重なっていることは避けられないことがある。

欠席者にどのように対応したらよいかは、宇宙教育に関わる諸組織が熟慮しなければいけないことである。フェアでクリーンでスマートであることが期待される。各組織は社会的な存在である。

## (2) 博物館見学計画作成上の留意点

## ア 博物館見学実施年度の年間を通しての重点や方針を明確にしたい

各宇宙教育に関わる諸組織の年間を通しての宇宙教育活動の基本姿勢は、明確にされているはずである。平素の指導の重点・方針は可視化され指導者の共通認識となっているであろう。それをもって、博物館見学の諸計画を立案したいものだ。

## イ 博物館見学計画を構成する要素を明確にしたい

博物館見学計画を構成する要素としては次のことが想定できる。

各組織の持ち味を活かしながら、見学計画を作成してはどうだろう。

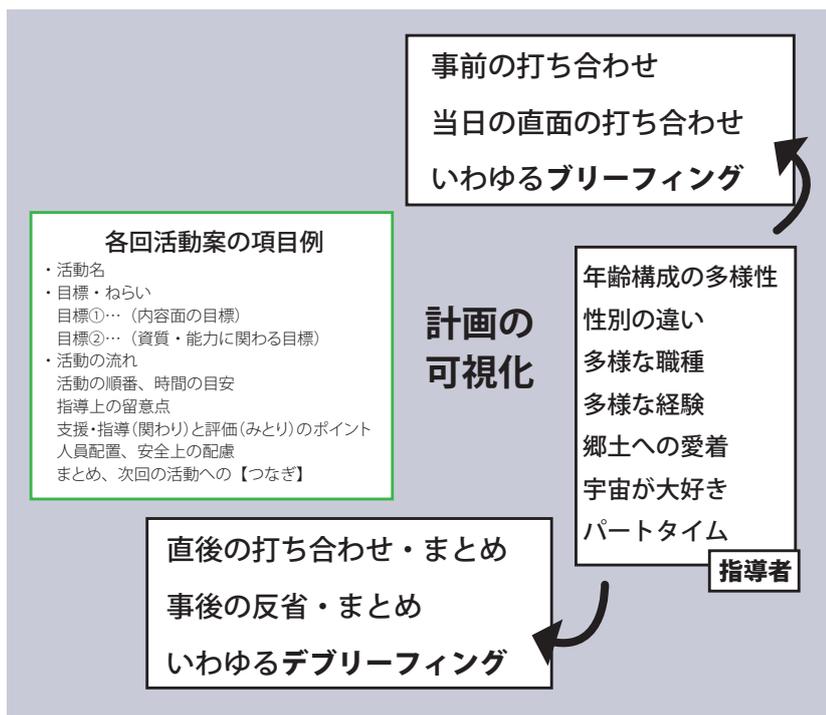
また、ここで取り上げる各要素は、当初からブリーフィング、デブリーフィングの項目として位置づけておくことにより、綿密な博物館見学計画になろう。

項目	説明
「場」の設定	
見学時期（季節）	年間活動計画との関わり、特別企画展等の開催時期
見学時間の設定	博物館への在館時間
天候・気候等	博物館見学にふさわしい時期の設定
参加の受付期間	計画をアナウンスして参加募集をする期間、最終申し込み締め切り
関係機関との連携	計画を立案する当初から開始したい
見学申し込み	見学人数、引率人数、見学日時、組織名 入館料減免申請の有無、入館料、見学時プログラムの申し込み、見学計画提出の有無、在館時間、雨天時等対応
集合・解散場所	集解散場所の衆知度の確認、一定時間使用の可否、届け出の必要性の有無、送迎保護者人数、対応できる空間、悪天候時の利用
利用公共交通機関	交通機関の運行時刻、運行状況確認方法、 利用時間帯の乗車率、乗車券団体購入の有無、利用上の諸注意
昼食場所	利用許可、利用時間帯の状況、他団体等の利用状況、トイレの位置、施設の配置
博物館事前実地踏査	
公式ウェブサイト	開館時間、設置目的、入館者へのお願い、利用上の諸注意事項、よくある質問、団体利用者への対応、特に社会教育諸団体への対応、イベント事項のアナウンス、アクセス情報、特別休館情報、等々衆知している情報の収集
インターネット検索エンジン	見学を有意義にする多様な情報の収集
パンフレット、ワークシート等	用意されている各種文字情報、施設説明図、各種資料が事前に見学者数だけ事前に入手できるか確認、複製の可否

項目	説明
展示内容	見学対象とする展示物の確認・位置の確認、事前説明用資料の収集、展示説明板の読み取りの難易度確認、見学スペースの確認、見学時の注意事項の確認（筆記用具の使用、写真撮影）
施般の設備等館内表示	館内表示を電子情報化し事前説明会の資料にする、トイレ位置、売店位置（利用の可否）、館内集合場所、見学順路
施設の管理者・窓口 【見学担当責任者】	見学担当者との面談（事前申し込み）、これまでの見学者対応のノウハウ、見学上の諸注意、見学時の案内サービスなどの有無・概要の確認、見学時までの相談窓口の確認、体調不良者対応、非常時対応の確認、他団体利用申し込み状況、一般入館者数の予想、見学計画を充実させるための情報収集
避難経路	実地に表示・経路の確認
救急病院等	経路での体調不良者への対応
もよりの警察等	博物館を含めて経路の非常時対応・相談窓口、不審者情報確認
連絡手段（携帯電話は使えるか）	携帯の受信感度の確認
博物館で開催される特別プログラム	サイエンスショーの場所、時間、見学可能人数
用意されているワークシート（再録）	見本、対象年齢、入手可能部数
参加者	
参加者の募集（人数、年齢）	グループ編制の資料
保護者参加の有無	兄弟関係参加の可否
持参物の案内	筆記用具、昼食、飲料水、服装、敷物、雨具
参加者名簿	非常時連絡先、健康状況
緊急連絡先、集合解散場所	引率者への緊急時連絡先
指導者	
企画担当者	企画担当者を中心に関係情報を豊富に収集、過去に実施している諸施設見学時の計画の参照、関係者で協議できる体制作り、諸計画の可視化、引率者人数の確保
引率者の組織・役割分担（人数）	引率可能な指導者の確保、指導者の持ち味の発揮
現場での最高責任者、役割分担	引率責任者を中心としたチームワーク
ブリーフィング	事前にブリーフィング、デブリーフィング資料の作成
指導者全員の内容理解	事前打合せ資料の熟読、引率のできない指導者を交えての事前協議
安全への留意点の把握	博物館見学時の全ての日程の安全確保、役割分担
準備物	
引率者の用意する準備物	博物館見学指導者資料集、参加者名簿、保護者連絡資料、緊急時連絡先、救急用具、指揮旗、笛、ハンドマイク、見学地提出名簿
参加者の用意する準備物 *再録	筆記用具、昼食、飲料水、服装、敷物、雨具
事前指導	
参加者する子ども	博物館見学のめあて、見学する博物館の特色、実施日、行程、服装、履き物、見学の見通し課題、グループ編成、しおりを通しての自主的な学習への誘い
保護者（説明会もしくは文書）	見学の意図、見学地の概要、実施までの予定、博物館との連携、当日の計画、集合解散、昼食用意、昼食場所、服装、諸準備、諸費用・集金予定、悪天候時の対応、非常時対応計画、保険、家庭での協力依頼、健康確認・留意事項、保護者の質問

項目	説明
指導計画	
指導計画（再録）	活動名、目標・ねらい、目標①…（内容面の目標）、目標②…（資質・能力に関わる目標）、活動の流れ、活動の順番、時間の目安、指導上の留意点、支援・指導（関わり）と評価（みとり）のポイント、人員配置、安全上の配慮、（保護者対応）、まとめ、次回の活動への【つなぎ】
活動内容	見学する博物館の特色と見学の目的の最適化
子ども用しおり	組織としての見学目的、自分の目的、博物館説明、行程表、地図、集解散場所説明、持参物一覧表とチェックリスト、館内案内図、感想メモ
保護者用しおり	集合、解散 欠席時の連絡先、緊急時連絡先、行程表
指導者用指導資料	子ども用資料に指導者用の留意事項を添付した資料を用意し、指導者の共通理解を深める、見学地に詳しい指導者が積極的に用意した指導者用資料、主要な展示物についてのバックグラウンド資料
保険関係	一日保険の手続きとその控え
外部提出用計画	指導計画から必要事項のみ簡潔に抜粋
安全に関する留意点（別項参照）	救急車手配、組織内連絡、保護者への連絡、集合時、移動時、交通機関利用時、博物館内、昼食時、移動時、解散時

ウ 博物館見学の指導者の共通理解のもと博物館見学を計画し実施する



計画の可視化、事前打合せ（ブリーフィング）、事後打合せ（デブリーフィング）が重要である。

このことの重要性は、宇宙教育指導者セミナーでも多くの機会に指摘しているところである。

社会教育の指導者のバックグラウンドは多様である。その多様性を組織の持ち味に高めるためにも計画の可視化、ブリーフィング、デブリーフィングは必須であろう。

ブリーフィング、デブリーフィングの項目例について、宇宙教育指導者セミナーテキスト、平成22年4月改訂版では、次ページのように項目を例示している。

各組織で、具体的には博物館見学計画に即して設定する必要がある。

## ブリーフィング（当日事前確認事項、事後検討会）について

### ■当日事前確認事項について（例）

- ・ 活動の概要
- ・ 役割分担・配置
  - ◇ 緊急時連絡体制の確認、担当者の配置と確認
- ・ 安全に関わる確認
  - ◇ 危険箇所等の情報共有
  - ◇ リーダーの関与部分、程度について
- ・ 指導・支援の重点について
- ・ 参加者に任せる部分、こちらで支援（手助け）する部分について
- ・ 参加者の状況（人数等）について
- ・ 個別参加者の状況と個別支援の必要性の有無について

### ■事後検討会について

#### 検討内容（例）

- ・ 活動内容に関わる、参加者の反応について
- ・ 時間配分について
- ・ 扱った内容、素材について
- ・ 関連する課題、発展性について
- ・ 課題レベルと、参加者の実態のずれについて
- ・ 個別の参加者について
  - 成長やがんばりが見られた点について
  - 課題となる点について
  - 健康・心理的な状況について
  - 人間関係面の課題について
  - 感想文から読み取ることができる事柄について
    - ◇ 気づいたことについて、できる限り、各リーダーはメモ帳に記録したり、デジカメで場面を撮影するなどして、活動のその場での記録をおこない、ブリーフィングなどで活用することが望ましい
- ・ 安全について
- ・ 次回、同様活動実施時の課題、目標について
- ・ 次回以降の課題、目標について
- ・ 次回活動について確認

「あなたも宇宙教育リーダー  
宇宙教育指導者セミナーテキスト P.119 再録」

## 4 特に博物館見学時の「危機管理と安全教育」

宇宙教育指導者セミナーでは、「危機管理と安全教育」を講座の全ての基盤においている。博物館見学も同様である。宇宙教育指導者セミナーのベーシックコースの社会教育基礎コースでの講座 PPT に、博物館見学に関わる補足を加えた。

宇宙教育指導者セミナーで使用されている PPT (平成 23 年版)	博物館見学を巡ってのメモ
<div data-bbox="156 439 762 887"> <h3 style="text-align: center;">危機管理と安全教育 ～活動時の安全管理と責任～</h3> <p style="text-align: right; font-size: small;">宇宙教育指導者セミナー</p> </div>	<p>宇宙教育活動の基盤にすべき危機管理と、平素の宇宙教育活動を通して大切にすべき安全教育について、活動時の安全管理と安全管理責任と責任を、社会教育基礎コースで説明している。</p> <p>博物館見学では、講座で説明している内容が極めて重要になっている。</p>
<div data-bbox="156 909 762 1357"> <h3 style="text-align: center;">災害はどのようにして発生するか</h3> <p style="text-align: center;">(根源) → (間接原因) → (直接原因) → (異常) → (被害)</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">宇宙教育指導者セミナー</p> </div>	<p>平素の活動の場とは異なる活動の場である博物館等の施設は、災害などに極めて高度な対応をしているが、来館者としての指導者の役割には、平素以上に多くの配慮が必要である。</p> <p>さらに集合から解散までの時間帯全ての時間において、果たさなければいけない役割は大きい。</p>
<div data-bbox="156 1379 762 1827"> <h3 style="text-align: center;">＜発達段階に応じた的確な能力などを 培わせることも危機管理である。＞</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 就学前の幼児や小学校低学年(1・2年生) 「集団の中の危険因子」→ <b>“安全のしつけ”</b>が必要</li> <li>• 小学校の中・高学年(3～6年生) <b>“決まりを守る”</b>ことを教える</li> <li>• 中学生 <b>“進んで決まりを守り、学校・家庭・社会の安全に進んで協力”</b>できる態度や、能力を養わせる</li> <li>• 高校生 的確な判断のもとに自分を含めて<b>“全ての人々の安全”</b>を守ることができる能力と態度を養わせる</li> </ul> <p style="text-align: right; font-size: x-small;">P.32 P.72</p> <p style="text-align: right; font-size: x-small;">宇宙教育指導者セミナー</p> </div>	<p>平素の活動をどのように行っているかが、博物館での活動の「秩序と変化」を醸し出してくる。</p> <p>閉ざされた空間でなく、社会の目が多くある中で全ての行動が注目される。</p> <p>指導者は、平素の活動の「評価」をうける側面があることを意識したい。</p>

<p>宇宙教育指導者セミナーで使用されている PPT (平成 23 年版)</p>	<p>博物館見学を巡ってのメモ</p>
<div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px;">1. 社会現象としての危機管理</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ (核家族化、安全教育低下、ゲーム世代、ネット社会、ひきこもり・・・) → <b>社会環境の変化</b></li> <li>▶ (管理瑕疵、・・・) → <b>管理責任への社会の見方の変化</b></li> <li>▶ (温暖化、集中豪雨、竜巻、大地震、土石流・・・) → <b>自然環境の変化</b></li> <li>▶ (新型インフルエンザ、光化学スモッグ、口蹄疫・・・) → <b>ボーダーレス化</b></li> </ul> <div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">安全に対する認識が変わってきている</div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">▶ 5 宇宙教育指導者セミナー</p>	<p>危機管理は、指導者全員が絶妙な協働をしなければいけない。管理責任を大きく問われている。対応しなければいけない要素は大きい。自然環境についても、多様な情報収集が必要である。</p>
<div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px;">1. 社会現象としての危機管理</div> <div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; margin-top: 10px;">(3) リーダーの共通理解と心構え</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ リーダー会議等で 情報交換などによる意識の向上</li> <li>○ リーダーの役割分担の明確化</li> <li>○ 関係機関への連絡体制</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">▶ 6 宇宙教育指導者セミナー</p>	<p>計画の可視化が出発点である。事前の指導者会議で、実施計画の共通理解が必要であり、指導者の役割分担の明確化が重要である。ブリーフィング、デブリーフィングも各組織の特色あるものが必要であり、利用交通機関、見学先の博物館、昼食場所等全ての関係機関との連絡体制を明確にする必要がある。</p>
<div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">活動時における来訪者の確認 (不審者等の対策)</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 立て札や看板等による案内・指示</li> <li>• 受付の明示</li> <li>• 会場への入り口等を管理可能に</li> <li>• 関係者及び来訪者に名札等の着用を義務づけ、識別を可能に</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;">●来訪者への声かけ等により身元の確認を</div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">▶ 7 宇宙教育指導者セミナー</p>	<p>いつもと異なる活動の場では、不審者への対応も愁眉である。博物館では指導者も、来館者の一人である。一般の入館者、他の団体入館者も当然多い。博物館の関係者と連携して不審者への対応が必要になる。名札や特定の服装（帽子の色や持ち物等）の工夫も必要となる。</p>
<div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">リーダーの共通理解として</div> <div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">活動前・活動後の安全確保に努める</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動前後の参加者の状況を把握する</li> </ul> <div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">活動中・活動の合間等の安全確保に努める</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ リーダー等は必要に応じて巡視等を行う</li> </ul> <div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">野外活動における安全確保に努める</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事前の綿密な計画や現地の安全確認を</li> <li>○ 参加者に対する事前の安全指導を</li> <li>○ 保護者や地域の協力を得た実施計画の作成</li> <li>○ 万一の事態に備えた連絡体制の確立</li> <li>○ リスクマネジメントを考える</li> </ul> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">▶ 8 宇宙教育指導者セミナー</p>	<p>集合・解散時の健康観察が極めて重要である。自己申告と同時に複数の引率者で確認し記録を残したい。博物館には施設固有の職員が存在する。連携することが重要である。博物館に博物館見学計画やしおりも事前に届け、十分なバックアップ体制をとって頂くことも重要である。</p>

### 安全に対する注意義務

- ① 安全な**場所**の選定(危険個所のチェック)
- ② **下見分**の義務(下見を必ず行う)
- ③ 周到な**用具**の準備と計画
- ④ **注意事項**の抽出・周知の徹底
- ⑤ **参加者**の健康、体力、技術、能力の**把握**

▶ 9

宇宙教育指導者セミナー

事前の下見は十分に行い、見学計画に反映させたい。下見時には博物館担当者との協議も十分に行いたい。最近では博物館のウェブサイトでの情報も豊富になっている。これらを通して諸準備を徹底したい。参加者の事前の健康状況、集合地点までの行動等も事前に把握したい。

### 安全に対する注意義務

さらに活動中には

- ⑥ その場所の**安全確認**
- ⑦ 気象などの**状況把握**
- ⑧ 適切な**指導監督**
- ⑨ **臨機応変**の処理
- ⑩ 万一に備えての**救急態勢**

▶ 10

宇宙教育指導者セミナー

⑥～⑩の各項目は、当日の指導者のブリーフィングで最終確認をし、万が一に備えて、諸計画を持参しておくことによって、その的確な遂行ができるであろう。

### リーダーの「心構え」として

<リーダー自身の心の安全管理>

「心のゆとり」「精神的な環境づくり」

(自分自身のことは意外と忘れがち)

ゆとりがあって初めて得られる子ども達の正確な情報  
子どもとのコミュニケーション能力



**潜在危険回避** に繋がる

P.73



▶ 11

宇宙教育指導者セミナー

指導者自身が、博物館の物理的な環境展示内容等の情報を事前に十分に収集・理解し参加し、子ども博物館見学の目標を十分に把握していたら、指導者の心構えもしっかりできるであろう。指導者自身の心身の健康の維持も極めて重要である。

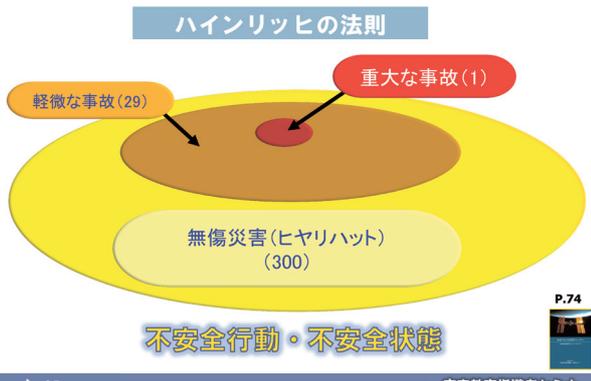
## 2. 守らねばならない「安全」

- (1) **安全能力**を高める
- (2) **安全態度**を身につける
- (3) **安全行動**を行う
- (4) **野外活動**における**安全**への**姿勢**
- (5) **子ども自身の安全**に対する**心構え**

▶ 12

宇宙教育指導者セミナー

博物館見学計画作成に時間をかけ、引率者が丁寧に話し合うことによって、危険予知能力を培うことができよう。見学計画の細案を作成することによって顕在危険、潜在危険、そして遠在危険を考察することが可能となる。

<p>宇宙教育指導者セミナーで使用されている PPT (平成 23 年版)</p>	<p>博物館見学を巡ってのメモ</p>
<p><b>事故対応能力を培う</b></p> <p>ハインリッヒの法則</p>  <p>軽微な事故(29)</p> <p>重大な事故(1)</p> <p>無傷災害(ヒヤリハット) (300)</p> <p>不安全行動・不安全状態</p> <p>P.74</p> <p>▶ 25 宇宙教育指導者セミナー</p>	<p>無償災害、いわゆるインシデント情報を如何に大切にすることが重要である。</p> <p>私も宇宙教育活動関係組織の指導者のバックグラウンドは多くの場合多様であり、年齢層も幅が広い。多様な経験を組織として共有することによって、上質な指導者群を構成することができる。</p> <p>インシデント情報が語り合える組織でありたい。</p>
<p><b>2. 守らねばならない「安全」</b></p> <p><b>(2) 安全態度を身につける</b></p> <p>1) 安全の原則を守ることが安全を守ることに繋がる。 (安全の3原則)</p> <p>2) 要求・欲望・衝動を抑えて我慢することが必要。</p> <p>「早く遊びたい」 「急いで道路を渡りたい」 「早く作りたい」 など。</p> <p>現代の子ども達に欠けている。子ども達に身につけさせる。</p> <p>P.75</p> <p>▶ 15 宇宙教育指導者セミナー</p>	<p>博物館見学時には、「早く見たい」「近づいてみたい」「もっと見たい」等の要求・欲望・衝動が顕著になる傾向がある。</p> <p>適切なグループ編成と、引率者の配置が必要である。</p> <p>博物館内には他の見学者も多い。そのなかで理想的な行動を子どもに期待しなければいけない現実がある。</p>
<p><b>2. 守らねばならない「安全」</b></p> <p><b>(3) 安全行動を行なう</b></p> <p>1) 安全の3原則</p> <p>① <b>安全は常に先取り</b> されており、<b>全てに優先</b> すること。</p> <p>② <b>自分の安全は自分で守る</b> こと。</p> <p>③ <b>ルールを守る</b> こと。</p> <p>P.75</p> <p>▶ 16 宇宙教育指導者セミナー</p>	<p>博物館や公共交通機関等では、それぞれ場に必要なら「安全」が先取りされている。それぞれの場に設けられているルールについて、指導者は参加者に指導しなければいけない。そのことが要請されている。学校教育、家庭教育と調和しながら推進したい。</p>
<p><b>2. 守らねばならない「安全」</b></p> <p><b>(4) 野外活動における安全への姿勢</b></p> <p>1) 関わる人間の範囲を広げながら、危険や安全の問題について考える。</p> <p>① 自分の身は自分で守る ② 自分にとっての安全を考える ③ 他人にとっての安全を考える ④ みんなにとっての安全を考える</p> <p>関わる人間の範囲が自分から他人へと広がって行くことにより、他人のことを考えることのできる子どもに育っていく。</p> <p>P.75</p> <p>▶ 17 宇宙教育指導者セミナー</p>	<p>博物館見学は占有状態で行われることは希である。他の見学者を十分に意識しながら安全を意識させたい。</p> <p>規範意識、公衆道徳を見学行動のなかで意図的に自然に学ばせたい。</p>

## 2. 守らねばならない「安全」

### (5) 子ども自身の安全に対する心構え

- 1) 活動ではどんな怪我や事故が起きやすいか説明する
- 2) 具体的な例示をする
- 3) 怪我や事故の防ぎ方を説明する
- 4) 危険な場所、遊び方などの事前解説する
- 5) 全員が理解・納得できるように伝える
- 6) 子どもが自分で気付くように伝える

P.76



▶ 18

宇宙教育指導者セミナー

博物館内では、グループで行動することが多いであろう。

平素の活動で大切にしている「安全に対する心構え」をベースに、必要事項を簡潔に指導したい。

集合時、移動時、入館時等と、それぞれの「機」に応じた適切な声かけが重要である。

## 3. 計画段階での見取り

(活動計画を策定する時の「危機管理」や「安全対策」について事前の見取り)

- (1) 活動を総合的に見る
  - 1) 活動の「場」について
  - 2) 「場」の環境について
- (2) 部屋の中での活動
- (3) 活動内容による安全対策は
- (4) 野外活動の計画時での安全対策は
  - 1) 地学的要因によるもの(気象、火山、水害)
  - 2) 生物学的要因によるもの(植物、動物)

P.76



※ 日々の研修やトレーニングが必要

▶ 19

宇宙教育指導者セミナー

(4) 野外活動と博物館の見学は共通する要素が大きい。博物館の立地条件は市街地にあつたり、郊外にあつたり多様である。実地踏査等をふまえ計画段階での見取りを十分に行いたい。引率者全員で実地踏査を行うことは理想であるが、指導者が多面的に事前に見取ることが大切である。

## 応急時の対応

- ▶ 大きさに越したことはない
- ▶ 自らできる処置「押す」「冷やす」「温める」
- ▶ 連絡を早く(保護者、団体責任者、関係機関)
- ▶ アレルギー、病院の指定等の個人情報の取り出し

救命講習受講のすすめ ▶

▶ 20

宇宙教育指導者セミナー

応急時の対応は、必要に応じ、躊躇せずに交通機関、博物館の関係者と連携を十分にとりたい。

さらに、応急時の対応について引率者が複数であったり、記録も簡潔にとりたい。

保護者への連絡も重要な役割である。

出発前の健康観察も大切である。

## 救急用具

一般的には

包帯、三角巾、ガーゼ、脱脂綿、油紙、カッター(幅の広いロール式の方が便利)、ピンセット、綿棒、ハサミ、棘抜き、体温計

薬品としては

消毒液: オキシドール、マキロン、リパノール、ヨードチンキなど。  
軟膏類: メンタム抗ヒスタミン剤、ステロイド軟膏など。  
副腎皮質ホルモン軟膏(ウルシかぶれ用)など。

その他

緊急用の呼び笛、懐中電灯、マッチ、トランシーバー、携帯ラジオ、手旗、発煙筒、ロープなど。

P.90



▶ 21

宇宙教育指導者セミナー

博物館見学の場合も救急用具の携行が必要である。医療行為はできないが、行き先に応じた必要最低限の用意はしたい。

移動中の怪我などへの対応が必要な場合がある。

宇宙教育指導者セミナーで使用されている PPT (平成 23 年版)	博物館見学を巡ってのメモ
<div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <h3>5. 管理責任・指導責任</h3> </div> <p><b>処理のあり方</b></p> <p>事件・事故が生じた場合の対処の仕方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事故の<b>拡大阻止</b></li> <li>2. <b>安全の確保</b></li> <li>3. 必要な<b>救急措置</b></li> <li>4. 速やかな<b>通報連絡</b></li> <li>5. <b>事故者を放置しない</b></li> <li>6. 速やかに<b>医療機関へ搬送</b></li> <li>7. 処置終了後の<b>挨拶</b></li> <li>8. 一切の処理が終わったら、<b>再度報告を兼ねてお世話になった人々(特に地元の方々)にお礼の挨拶</b></li> </ol> <div style="text-align: right; font-size: small;">  </div> <div style="font-size: x-small; margin-top: 5px;">▶ 23 宇宙教育指導者セミナー</div>	<p>博物館での見学中の事件・事故においては、博物館の関係者との連携が重要であるし、事前に万一の場合の集合場所・担当者を明確にしておいたり、引率者相互の連絡方法を事前に確認しておくことも重要である。</p> <p>保護者への連絡方法についても詳細に確認する必要がある。</p> <p>事故者への対応と、他の参加者への対応とも的確にしたい。</p>
<div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <h3>6. 保 険</h3> </div> <div style="background-color: #00a65a; color: white; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>保険はお守りとまではいかないが、 保険を掛けることは、ある意味 <b>安心</b> が伴う</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) レクリエーション保険</li> <li>(2) 宿泊を伴う活動について</li> <li>(3) 行政制度としての保険</li> </ol> <div style="text-align: right; font-size: small;">  </div> <div style="font-size: x-small; margin-top: 5px;">▶ 24 宇宙教育指導者セミナー</div>	<p>博物館見学にも、レクリエーション保険を必ず掛けたい。</p> <p>保険手続をする中で、関係書類、参加者名簿を整えることが必須であり、博物館見学の計画がより明確になってくることも重要である。</p>
<div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px; text-align: center;"> <p>危機管理能力を高めるために</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>経験する</b> — 場数をふむ             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ いろいろな場面に巡り会い判断行動した実績</li> </ul> </li> <li>▶ <b>反省する</b> — 謙虚さ大切             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 自分に至らぬ点を認めよりよい考えを取り入れる</li> </ul> </li> <li>▶ <b>研修する</b> — 知識・向上心             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 学ぶ意欲大切、正しい知識が正しい判断を生む</li> </ul> </li> </ul> <div style="font-size: x-small; margin-top: 5px;">▶ 25 宇宙教育指導者セミナー</div>	<p>上質な経験を重ねたい。可視化された計画をもとに、簡潔な充実したデブリーフィングを実施し、博物館見学の一件書類を整理し、「経験」を活かしたい。</p> <p>見学の感想文、保護者の声等も重要な反省資料である。</p> <p>新聞や各種刊行物など、各種マスコミで報道される博物館情報も参考にしたい。</p>
<div style="background-color: #4a7ebb; color: white; padding: 5px;"> <p>終わりに</p> </div> <p>楽しく活動していた時間、楽しく過ごしていた時間、これらも僅かな不注意や認識不足で生起する事件・事故などで一瞬に消え去る。</p> <p>リーダー達に寄せられていた <b>信用・信頼</b> も <b>不信</b> になる。その後の運営・経営は<b>不可能</b> に近くなる。</p> <p>そうならないように、努力を続けていただきたい。</p> <p style="text-align: center; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">共に頑張りましょう！</p> <div style="font-size: x-small; margin-top: 5px;">▶ 26 宇宙教育指導者セミナー</div>	<p>参加者が無事家に帰って博物館見学の全てが終了する。可能なら見学した施設にもそのことを連絡したいし、後日子どもの感想文も添え、見学のお礼をしたいものである。</p>

「危機管理と安全教育」講座の最後のスライドには、次のように記している。

楽しく活動していた時間、楽しく過ごせていた時間、これらも僅かな不注意や認識不足で生起する事件・事故などで一瞬に消え去る。

リーダー達（指導者）に寄せられていた信用・信頼も不信に変わる。

その後の団体運営・経営（組織）は不可能に近くなる。

そうならないように、努力を続けていただきたい。

（ ）内、附記

## 謝辞

本稿は、JAXA 宇宙教育指導者セミナーで使用されている、テキスト・講義資料をもとに作成されています。関係者の方々に感謝申し上げます。

キーワード

ほんもの体験、博物館、科学館、ブリーフィング、デブリーフィング、危機管理と安全教育

教材提供 : 日本宇宙少年団呉やまと分団 臼井敏夫氏  
発行 : 宇宙航空研究開発機構 宇宙教育センター

協力 : 財団法人日本宇宙少年団 YAC  
財団法人日本宇宙フォーラム

©JAXA2012 無断転載を禁じます